



議会だより

令和 6 年 2 月 1 日 発行
 発行 青森県上北郡横浜町議会
 〒039-4145
 青森県上北郡横浜町字寺下35
 電話 (0175) 78-2111
 F A X (0175) 78-2118
 編集 議会広報編集委員会



青森県栽培漁業振興協会視察

撮影日：令和 5 年11月10日

●第 4 回定例町議会 審議した主な内容 P 2

●一般質問 6 人登壇 P 4

●議員活動報告 P 9

令和5年 第4回定例町議会

12月定例会は、12月7日(木)から11日(月)までの5日間の会期日程で開会し、日程を3日繰り上げて閉会しました。

提案された議案は、承認1件、条例7件、人事案件1件、工事請負契約の一部変更3件、補正予算5件の合計17案件を慎重審議し、原案のとおりそれぞれ承認・可決・同意しました。

一般質問には、菊地英史議員、橋本円議員、杉山大栄議員、澤谷航一議員、沖津正博議員、野坂浩二議員の6人が登壇し、今後の水産業について、横浜町役場新庁舎建設について、企業誘致の推進について、シルバー人材センターの予算増額について、介護保険料・利用料の軽減について、ごみ分別収集についてなど、多方面にわたり論戦を展開しました。

補正予算の主な内容

◆令和5年度横浜町一般会計補正予算（第4号）専決処分

歳入歳出それぞれ5,305万5千円を追加し、予算の総額を46億2,312万7千円とする。

※青森県子ども子育て世帯応援金給付事業及び横浜町物価高騰緊急対策給付事業に係る補正予算です。

◆令和5年度横浜町一般会計補正予算（第5号）

歳入歳出それぞれ4,531万7千円を追加し、予算総額を46億6,844万4千円とする。

歳入（主なもの）

・総務費国庫補助金 919万6千円増 ・土木債 1,700万円増

歳出（主なもの）

・財産管理費 7,071万3千円減 ・子どものための教育・保育給付費 680万円増
・除雪費 6,708万7千円増

◆令和5年度横浜町特別会計補正予算

・国民健康保険特別会計

歳入歳出それぞれ497万5千円を追加し、予算総額を6億6,997万5千円とする。

・介護保険特別会計

歳入歳出それぞれ358万9千円を追加し、予算総額を8億7,813万1千円とする。

・下水道事業会計

支出の営業費用で12万4千円増額。

・水道事業会計

第3条予算 収益的収入及び支出の収入 補正はありません。

〃 支出 営業外費用で18万4千円を増額。

審議した議案の結果

12月定例会で審議した議案とその議決結果です。(審議した順に掲載)

議案番号	議 案 名	審議結果
承認第12号 (専決第12号)	専決処分した事項の報告及び承認を求める件について (令和5年度横浜町一般会計補正予算(第4号))	承認
議案第53号	横浜町職員の給与に関する条例の一部を改正する条例	全会一致で 可 決
議案第54号	横浜町職員の育児休業等に関する条例の一部を改正する条例	
議案第55号	横浜町第1号会計年度任用職員の報酬、期末手当及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例	
議案第56号	横浜町第2号会計年度任用職員の給与に関する条例の一部を改正する条例	
議案第57号	横浜町特別職の職員の給与支給条例の一部を改正する条例	
議案第58号	横浜町議会議員の給与及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例	
議案第59号	横浜町国民健康保険税条例の一部を改正する条例	
議案第60号	横浜町教育委員会委員任命につき同意を求めることについて	
議案第61号	工事請負契約の一部変更について 町営住宅有畑団地B棟建築工事	全会一致で 可 決
議案第62号	◇ 町道向平1号線道路改良工事	
議案第63号	◇ 横浜地区(百目木漁港)水産物供給基盤機能保全工事	
議案第64号	令和5年度横浜町一般会計補正予算(第5号)	
議案第65号	令和5年度横浜町国民健康保険特別会計補正予算(第2号)	
議案第66号	令和5年度横浜町介護保険特別会計補正予算(第3号)	
議案第67号	令和5年度横浜町下水道事業会計補正予算(第2号)	
議案第68号	令和5年度横浜町水道事業会計補正予算(第3号)	

発 議

件 名	審議結果
日本政府に核兵器禁止条約の調印・批准を求める意見書	可 決

町政を問う 一般質問

12月定例会

菊地英史 議員



今後の水産業について

質問①

8月21日、東京電力福島第一原発の処理水海洋放出に伴う、中国の水産物輸入停止措置などを受け、青森県においても中国向けに輸出

出したホタテが通関できず積み戻されたり、保管料がかさんでいるがゆえに国内で供給過多となっています。

また、7～9月にかけてのむつ湾内での高水温が続いた影響によるホタテ稚貝の大量死などの被害が各地で発生し、今後さらに深刻な影響が予想されています。

このような中国による日本産水産物の全面禁輸措置と、高水温による深刻な影響が懸念されるむつ湾ホタテについて、当町の水産業にどのような影響を与えているのか、その現状と見通し対策について伺います。

答弁

年明けからはホタテガイの出荷適期を迎えます。販路の開拓・拡大対策については、町からも県に対して強く要望しているところであります。

禁輸措置の影響がどこまで続くのか現段階では不透明な状況ではありますが、推移を注視しながら必要な対応をとっていく考えであります。

また、へい死の状況につきましては、横浜町漁協では、各漁業者で個人差はあるものの、稚貝の確保率が平年の5割から7割程度と予想しております。

今後の取り組みにつきましては、むつ湾漁業振興会が行う、親貝確保の取り組みとしての基金事業や、経営資金借入れに対する利子補給事業について、県の助成措置に伴い必要となる町の財政措置について対応していくこととしております。

質問②

毎年、正月の定番料理として親しまれ、特許庁の地域団体商標にも登録されている「横浜なまこ」について、数が減り不漁が続いたため去年初めて漁が中止となり、今年も中国による輸入停止措置の影響が懸念されていますが、今後の見通しや「横浜なまこ」復活について対策をどのように考えているのか伺います。

答弁

横浜町漁協としては、昨年度中止とした正月用の「横浜なまこ」の操業は何とか実施したいとの考えであり、状況を見守っていきたいと考えております。

今後の「横浜なまこ」復活の対策につきましては、種苗放流の継続に加え、新たに種苗生産への取り組みに向けて横浜町漁協で検討される予定となっております。

スズメバチ被害予防対策について

質問

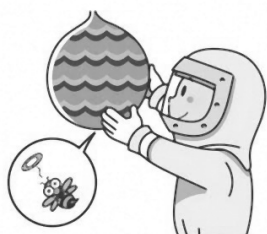
今年例年比べ秋になってもスズメバチが多く飛び回っているとの情報を受けました。小学校の通学路付近では、通学途中の児童がスズメバチと思われる刺傷被害にあったとの報告を受けておりますが、このような被害に遭わないためにも町としての考えを伺います。また、スズメバチの相談、駆除件数についても伺います。

答弁

今年の8月に小学校の児童が通学途中に、蜂に顔を刺された事案が1件発生しており、直ちに医療機関へ搬送し受診しております。

教育委員会では、児童がスズメバチに刺されたと思われる現場付近において、スズメバチの巣を発見し、町民課を通じシルバー人材センターへ駆除の依頼をしており、数日間町民課と教育課で現場確認をしております。

また、昨年度の蜂駆除の件数は44件であり、今年度は11月末現在で、134件であり、約3倍の件数となっております。そのうちスズメバチの相談及び駆除件数は112件であります。



橋本 円 議員



横浜町役場新庁舎建設について

質問

庁舎は建設されて50年が経つとしています。

東日本大震災の後、平成30年に耐震補強工事をしてはいますが、いわゆる応急処置でダメージを蓄積するデメリットがあり、倒壊のリスクが高まっていくので注意が必要です。

また、9月の定例会の一般質問で、クーラーの取り付けが必要なのではと質問がありました。来年度からでも検討していかなければならぬのではないのでしょうか。

これからの物価上昇により、ますます建設の予算が

高くなり庁舎建設が難しくなると予想されますが、町長の考えを伺います。

答弁

役場庁舎は、昭和50年に建設、平成30年に耐震補強工事を実施し、現在に至っています。耐震補強工事では、耐震性を向上させるための耐震補強工事とそれに伴う改修工事、および老朽化した外壁の改修、屋上防水の改修、劣化の見られる外部サッシの改修等を実施し、このことにより、耐震補強後は20年間耐用することとなっております。

空調設備については、今年度から調査設計を行い、来年度には工事に着手したいと考えております。

新庁舎建設については、建設費用を始め、建設地の選定や建物の規模等さまざまな課題がありますので、先を見据えつつ、まずは内部での検討を行い、準備を進めたいと考えております。

杉山大栄 議員



企業誘致の推進について

質問①

地方から若者の流出を防ぐということが元来の大きな課題でありますが、地元で働く場所がないため、若者が地域に定着していくための「仕事づくり」が必要だと思えます。

また、誘致企業が地域に根を張り、地域と共に成長しながら事業を拡大していくことも町内企業との取引拡大や技術向上につながるものと考えます。そしてそれが若者の町内定着・還流にも期待されると思います。そこで、過去5年間の誘致企業の実績と傾向について伺います。

答弁

過去5年間の企業誘致の実績と傾向についてでありますが、誘致に至った企業は残念ながらありません。

また、当町の傾向としては、再生可能エネルギー関連事業の建設に関する事業者の進出や、ほかの業種でも、日本原燃の社員寮、介護サービス事業所、下北縦貫道路建設に伴う事務所などが、新規商業施設の進出もあり、移住や雇用の増なども見込まれています。

質問②

企業誘致の推進及び事業拡大に向けて、町はどのように取り組んでいるのか伺います。

答弁

町では、第6次横浜町総合振興計画において、働く場の拡充と雇用対策を掲げ、地域産業の活性化に向けての人材育成と創業支援及び優良企業の誘致を進めるため、都心部における相談会の開催など、県や関係

機関と連携を強化しているところ です。

今後とも、若者等の定住及び地域力の維持・強化を図る上で、企業誘致の推進とともに通勤しても町内に定住・移住していただけるよう取り組みも進めながら、土地利用の現況や諸条件を勘案し、地域の特性や環境にあった町内への企業誘致を進めていきたいと考えております。

町内3河川の整備について

質問

現在、町内の3河川（鶏沢川・松木川・三保川）とも、雑草や雑木だけでなく土砂が埋積し、洪水を安全に流下させることができない状況だと思えます。町も豪雨災害を未然に防止し、町民の安全・安心な暮らしを確保するためにも、県に対して早急な治水対策を要望し、地域の安全向上を図っていただきたいと思えますが、町の見解について伺います。

また、町に対して町内3

河川の町内会などから、河川整備の要望があるのか伺います。

答弁

町内3河川については、県による定期的な巡視を行っていると同っておりま

す。町でも職員による河川の巡視をしており、上北地域県民局へ現況を報告し、3河川の河床整理及び三保川の転落防止柵の改修を継続して要望しています。

また、町内会等からも木の伐採等、3河川の整備について、町への要望を伺っておりますので、上北地域県民局へ適切な維持管理をしていただくよう強く要望してまいりたいと考えております。



澤谷航一 議員



漁業振興対策について

質問

先日、町議会議員として社団法人青森県栽培漁業振興協会（栽漁振）を視察しました。その中で参考になった事を含めて私見を提案いたします。

①なまこの種苗生産

既に隣接の野辺地町漁協、川内町漁協他津軽地区でも取り組んでいますので、当町でも始めるべきではないか。

②フジツボの養殖・販売品目化

町内でも過去に取り組んだ人がいましたが、栽漁振では幼生を育てるための餌が見つかったということ

で、

③ホタテ稚貝の地播

耳吊りのように立体的に配置するのと違い、平面への収容枚数には限りがあり、海水温の上昇により死滅しているのだから、水温の低い沖合、例えば面積の広い航路への地播も検討すべきではと考えます。そのホタテは漁獲できるかも不明ですが、漁獲できなくても親貝確保には繋がると思います。

④漁場調査

水中カメラや水中ドローンを活用することで、潜水せずに効率良く海底の状況が把握可能です。それにより、なまこ種苗放流やホタテ稚貝の地播をする敵地の選定が可能ではないか。

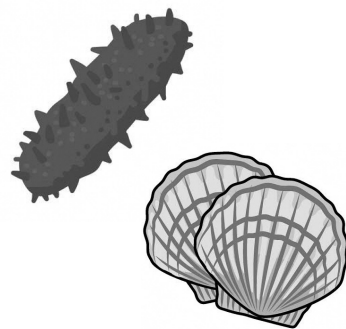
⑤ヒトデ駆除

漁場調査で判明した生息密度の高い場所から徹底して駆除をしていかないと、どんな努力も水泡に帰すこととなります。

⑥磯焼け対策

アミノ酸を混入した漁礁には海藻が活着しやすいため、まずはその漁礁を入れ

て、それをアンカーとして栽漁振で生産している昆布種苗ロープを張る事により、昆布が生育すれば光合成により海中に酸素が供給され全ての生物の生息環境改善に繋がるのでは。以上の事すべてを横浜町漁協と共に積極的に進めることがむつ湾漁業振興対策に繋がるものと考え、この横浜町から発信していきたいと思いますが、町長の考えを伺います。



答弁

この研修を踏まえてのご提案ということであり、大変ありがとうございます。

議員のご提案の件につきましては、いずれも今後の漁業振興に関わる貴重なご提

案でありますので、引き続き横浜町漁協と意見交換しながら、実施の可能性を検討し、対応してまいりたいと考えております。

シルバー人材センターへの予算増額を

質問

身体が丈夫で働きたい人が増えたため、今年度の予算が9月で底をついたと聞きました。

今年度中の追加補正と来年度の増額を希望しますが町長の考えを伺います。

答弁

委託費につきましては、町とシルバー人材センター事務局と協議し、補正対応を行っております。今年度は例年より作業員の増加やスズメバチの駆除等が多くなり、冬期間の準備作業や他の業務の配分額を残し、やむを得ず草刈り作業を終了しております。

今年度中の補正につきましては、冬の除雪作業があるため、今定例会で増額の

補正予算を計上しております。

また、来年度の予算増額については、これから当初予算の編成になりますので、状況を見ながら判断したいと思います。



町役場職員からのアイデアを募集します

質問

私は以前から「町役場はこの町一番の頭脳集団です」と言葉にしています。定年退職したら、町三役や議員になってこの町に貢献したい人もいるかと思いますが、日々の常務の中で「こうしたら良いのでは」「こんな

事をやってみたい」などの閃きがあった時には惜しむ事なく是非ともご披露していただきたいと思えます。

そのための場・時間を、職員会議等で割いていただくとか、直接我々議員に提案していただきたいと思えますが町長の考えを伺います。

答弁

町では事業を実施するにあたり、まちづくりの指針である「第6次横浜町総合振興計画」を策定し、「第2期横浜町人口ビジョン及び横浜町総合戦略」で具体的な目標や施策を位置づけ、取り組んでおり、毎年、基本目標と数値目標の達成度を検証し、見直しを図ることを基本としています。

各課においても、事業実施に向けた計画を立て、条例や要綱、予算を取りまとめたいたしますが、この間、職員からの発案があり、協議・検討を行っております。

また、役場全庁的な事業についても、所属に限らず、職員の様々な視点からの発

案があり、協議・検討を重ねております。

沖津正博 議員



介護保険料・利用料の軽減へ

質問

来年度より第9期の介護保険事業計画が策定され、保険料の見直しを検討されています。現在の介護保険料は2000年当初比で約2倍の月額6,400円(基準)となっております。町は、介護の予防に力を入れ地域支援活動など各種の取り組みに努力されてきましたが、保険料の引き上げを回避できる特段の配慮を求めます。

次期3年間の介護保険次号計画の予定する保険料や

特徴など概要を伺います。また、保険料の減免・利用料の負担軽減制度の申請や活用状況についてお知らせください。

答弁

保険料につきましては、当町の算定では、介護保険給付費準備基金を充当しない算定で、現在の基準額より1,400円の増額となる試算でありました。

今後において、準備基金を取り崩しながら精査し、介護保険料負担の軽減を図り、介護保険等運営協議会に諮りたいと考えております。

事業概要につきましては、第8期と大きな違いはなく、「一人ひとりが健康で生きがいを持ち、住みなれた地域で安心して生活できるまち」を基本理念とし、第9期においても、介護予防に力を入れ、更なる充実を図ります。

また、保険料の減免では、第8期において、低所得者である第1段階から第3段階の保険料の軽減を実施し

ております。

利用料の負担軽減制度の申請状況であります。令和4年度の実績で、低所得者の人が入所施設を利用した場合の居住費・食費の負担限度額申請者は114名であり、高額サービス費申請者は144名、高額介護合算療養費申請者は71名であります。

ごども・若者の居場所づくりをすすめよう

質問

ごども家庭庁は、「人間は社会的な動物であり、自分の居場所を持つことは、自己肯定感や自己有用感に関わるなど、すべての人にとって生きる上で不可欠の要素である。居場所がないことは、人とのつながりが失われ、孤独・孤立の問題と深く関係する重大な問題である」とし、居場所づくりを進めています。当町の考えや取り組みについて伺います。

また、居場所の一つとなる放課後児童クラブにおい

て、夏休みなど長期休暇中の食事の提供はできないか伺います。



見も聞きながら、菜の花にこここセンターが子どもの居場所となるよう、児童センターの運営に取り組んでまいります。

なお、学校の長期休暇中の食事提供につきましては、利用する当日の子どもや、アレルギー対策、調理場・管理栄養士や調理員の確保など、様々な課題があるため、提供は難しいと思います。

答弁

取り組みにつきましては、学校をはじめ、公民館や図書館、スポーツ少年団といった居場所もあります。令和2年度から新たに、菜の花にこここセンターにおいて放課後児童クラブを含んだ児童センターを開設し、多くの子どもに利用されております。

また、月一回「食育講座」を開催しており、さらに今年度は、防災に関する勉強会を行っております。

今後は、子どもたちの意

ホタテ・ナマコ不漁・価格低迷対策を

質問

町の漁業は夏場の高水温によるホタテの大量へい死、ナマコの不漁、福島原発処理水放出にかかる価格の低迷などがつてない漁業危機に直面しています。

今後、ホタテ・ナマコ対策本部の設置や稚貝・母貝確保支援など必要施策を施す考えがないかお伺いします。

答弁

ホタテの親貝確保の取り組みとして、むつ湾漁業振興会が行う基金事業に係る県の助成措置や、漁業者負担軽減対策の状況等を踏まえ対応していきたいと考えております。

野坂浩二 議員



びんみの分別収集について

質問

当町におきましては、4月より新たに、プラスチックごみの分別収集がスタートし、町民の間でも話題になりました。分別してみたらしんどい、プラスチックごみだ「月一回の収集だと少ない」「うちは置き場所があるけど無い人は大変だ」と

プラスチックごみの量の多さに四苦八苦しています。

4月からスタートしたプラスチックごみの分別ですが、その経緯についても一度町民の皆さまに説明を願います。

答弁

プラスチックごみについては、プラスチックに係る資源循環型の促進等に関する法律が改正され、「市町村は、分別基準を策定し、その基準に従って適正に分別し、排出するよう、住民に周知するよう努めなければならない」となっており、町内会長会議や広報よこはまを活用して全世帯に周知を図っております。

現在プラスチックごみの分別収集を試験的に実施中ではありますが、役場への町民からの問い合わせ等の内容をまとめ、広報よこはま、及び役場ホームページにて、町民の皆さまへお知らせしたいと考えております。

また、今後プラスチックごみの分別収集に関しまし

て、町民の皆さまからご協力をいただく場合は、これまでと同様、町内会長会議でお願いをし、広報よこはまを活用して全世帯に周知し、ご理解とご協力をいただきたいものと考えております。

質問

本年はテスト期間・試験運用期間ということで、収集日が月一回だと思いが、来年度以降の対応について伺います。

答弁

町内会長会議や電話にてご意見等いただいておりますので、来年度は月2回の収集日を設ける予定で進めております。



青森県栽培漁業 振興協会視察

11月10日（水）、階上町にある、青森県栽培漁業振興協会を訪れ、なまこ種苗生産の視察研修をしました。

幼生飼育から稚ナマコになるまで、育ててから出荷するまでの過程や飼育に係る課題について説明をいただき、町への政策の提言・立案の参考となりました。



波板に付着したナマコを観察する議員たち

4町村研修会

11月20日（月）、横浜町・東通村・六ヶ所村・野辺地町の議会議員による交流親睦を深める研修会が野辺地町で開催されました。

〈講演〉

演題：『資産所得倍増プラン
～成長と資産所得の好循環を
目指して～』

講師：(株)みちのく銀行 八戸地区本部
コンサルティングチーム
チーム長 澤田 裕司 氏



時期開催地である横浜町議会議長より挨拶

タブレット研修会

12月7日（木）、ペーパーレス会議システム導入に向けた、2回目のタブレット研修会が開催され、議員がタブレット端末の会議システム操作方法を学びました。

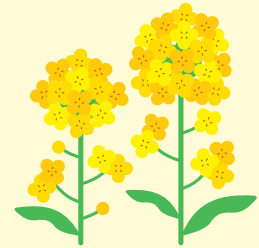
今回は、東京インタープレイ(株)延山氏を講師に招き、議員に端末が貸与され、端末の使い方のほか、会議システムのファイルのダウンロードやページ送り、ファイルの上にメモを書く手順などを確認しました。



タブレット端末の操作方法を学ぶ議員たち

横浜町議会の主な動き

10月31日	全員協議会 (1)青森県物価高騰緊急 対策市町村交付金事業 について (2)陸奥横浜駅舎改修工事 について (3)青森県子ども・子育て 世帯応援金給付事業 について (4)なたね助成金について (5)最終処分場修繕工事 について	12月 7日 12月11日	タブレット研修会 議会活性化委員会 (1)議員報酬について (2)視察研修の時期等について (3)子実用トウモロコシ 収穫実演研修会について 広報編集委員会 議会活性化委員会 (1)議員報酬見直しに係る 条例改正案について (2)議員定数について (3)タブレット導入について
11月10日	青森県栽培漁業振興協会視察		
11月20日	4町村交流会		
11月22日	総務教育常任委員会		
11月24日	産業民生常任委員会		
11月30日	議会運営委員会		



議会を傍聴しませんか

町の動きを知るよい機会です。
多くの方が町政に関心を持ち、議会を傍聴する
ことが議会活性化の一つです。

12月定例会の傍聴者は28人でした。
次の定例会は3月の予定です。
みなさんの傍聴をお待ちしております。
(詳しくは議会事務局まで)

みなさんの声をお聞かせください

町民の皆さんに親しまれる
紙面づくりを目指し、ご意見、ご要望
(傍聴された方のご意見も合わせて)
お待ちしております。

議会広報編集委員会
TEL78-2111 内線430・431

広報編集委員会

委員長 野坂浩二
副委員長 杉山大栄
委員 濱谷和恵
澤谷航一
沖津正博

令和5年を振り返る時、長く続いたコロナ禍の緩和により、経済や、社会活動が活発になると期待を持ったが、長引く戦争による生産現場での資材の高騰や異常的猛暑によるホタテのへい死、中国による水産物の禁輸。また、国民生活においては消費者物価の高騰など大変な一年であった。なんとか年を越えたと考えた矢先に石川県においての大地震というように現況は想定以上の大きな変化に翻弄されています。今後は、い何が起るかわからない状況を常に想定に置き、緊急時には冷静かつ迅速に対応できるように、普段から心構えが必要だと考えるところです。

濱谷和恵

編集後記